未来に響け『石の声』展示・講評会 VOL1開催報告

NPO法人 大谷石研究会
理事　更田邦彦

平成25年9月14日(土)、台風前の真夏のお天気の中、予定通り「大谷石研究会　未来に響け『石の声』展示・講評会VOL1」を開催いたしました。

〔共催／宇都宮大学工学部建設学科建築学コース　事業助成／(公財)建築技術教育普及センター〕

午前中は、「池田緑商店」の採石場の地下空間見学を中心に、大谷を散策するなど大谷の魅力を体験していただきました。午後は「旧大谷公会堂」を会場に、宇都宮大学建設学科学生の作品展示をご覧の上、ゲストでお越しいただいた奥山信一さん(建築家・東京工業大学教授)の講評を伺いました。また参加者からの意見もたくさん聞かせていただきました。

来場者25名＋発表者学生10名に参加いただき、学生の建築作品を通して大谷の現在と未来について考える、とても有意義な機会になったと思います。

これを契機に「旧大谷公会堂」の積極的利用を目指して、展示会などいろいろな催しを今後も行っていければと思います。

竪坑見学

〈開催内容〉
宇都宮大学建設学科学生の設計作品を通して大谷の未来を考える、展示・講評会を「旧大谷公会堂」で実施
□会場…旧大谷公会堂
□開催日…平成25年9月14日(土)
展示 講評会
◇学生作品プレゼンテーション
◇ゲストクリティークと参加者による講評会
◇意見交換会
□主催　NPO法人 大谷石研究会
□共催　宇都宮大学工学部建設学科建築学コース
□事業助成　公益財団法人 建築技術教育普及センター

プレゼンテーションの様子

■展示作品
1、宇都宮大学建設学科3年時の設計課題作品7点
課題概要…大谷のメインストリート＋姿川沿いの某敷地に「大谷の情報ステーション」を設計する。なお、施設内には各自が提案するスペース(＋X)を設ける。
2、卒業設計作品1点
作品概要…大谷地区を対象とした卒業設計制作
3、卒業論文1点
作品概要…大谷石建築の集落の一つである「徳次郎町西根地区」の研究論文
4、宇都宮大学安森研作品1点
作品概要…震災がれき大谷石の再利用による休憩所(2013年グッドデザイン賞受賞)

会場清掃、設営

奥山氏総評

さくら市・喜連川町見学会

NPO法人 大谷石研究会
理事　海老原忠夫

平成25年6月22日(土)、さくら市の氏家地区と喜連川地区を研究会のメンバー12名で散策しました。

氏家地区の最初の見学は、千禽酒造の石蔵です。大谷石と徳次郎石の積み石造りで、入口の両側に構えた蔵は老舗の造り酒屋の歴史の重みを感じさせてくれました。街中では、木造2階建の建物で隣地に面した壁が、全面に大谷石を貼って防火壁とした建物が何棟もあり、独特の景観でした。氏家駅周辺には、かつては大谷石の倉庫が多く立ち並んでいました。その一つ、大谷石の農業用倉庫を改装して街の核となる施設として整備され近隣の建物群と回遊性を持たせる工夫がなされたのが「さくら eプラザ三番館」です。旧奥州道中を喜連川へ向かって行くと、瀧澤家住宅があります。城壁のような大谷石塀に囲まれた建物群、鐵竹堂、座敷蔵、長屋門は県の指定文化財です。ここは明治25年旧氏家町で日本初の陸軍大演習が行われた際に、大元帥陛下(明治天皇)の小休所になりました。陛下を迎える為瀧澤喜平治は鐵竹堂を最新の技術と美意識の粋を集めた建物と調度品で造ったと云われてます。奥州道中を弥五郎坂を通って、日本一小さな大大名喜連川公方の城下町に入った。格式十万石、表高五千石の大名でありました。連川公方(足利氏)は源氏―足利尊氏―関東公方―古河公方の流れをくむ家として、豊臣秀吉の小田原攻め後に誕生。

今の喜連川の街割りは二代藩主頼氏公により整備されてから四百年余り変わっていません。城下町であり、宿場町である名残りを楽しみました。割玉石積の御用堀、面影残る武家屋敷跡、おかめ笹の「寒竹囲いの家」、喜連川公方歴代墓所の龍光寺、築堤を囲ぐらせた中に六十基ほどの石塔等は圧巻です。表通りには大正2年に建てられた旧喜連川銀行本店など、近代栃木における様々な足跡を辿る散策でした。

龍光寺

鐵竹堂滝澤記念館

宇都宮市長へ 要望書その五を提出する

NPO法人 大谷石研究会
理事長　小野口順久

平成二十五年七月三十日、城山地区主要七団体で、旧大谷公会堂の移転先の最適地を提言した。

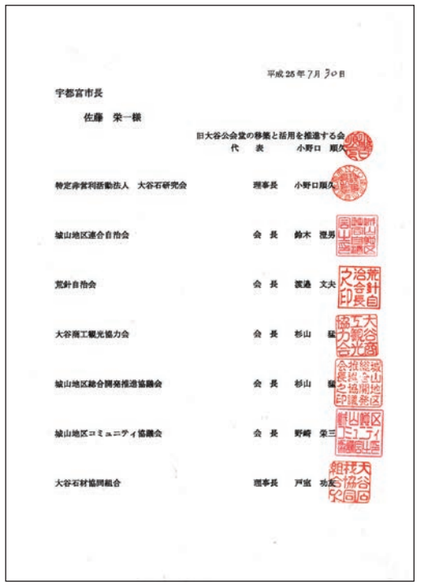
その内容を略筆すると

一、移築の場所
1、所在地　宇都宮市大谷町字屏風岩一八〇九
2、面積　二筆計　三、二八五㎡
3、所有者　渡邊守康氏
4、概況
県道七十号線(文挟街道)大谷橋手前と県道大谷線との分岐点右側、屏風岩渡辺家右前、地目は田、現況は休耕田の草地

二、最適地の理由
1、地主は勿論のこと、家族の理解と協力があること。
2、この場所は、「石の里大谷」の正に玄関口に位置して、目立つ場所であること。
3、大谷石造りの優れた建造物が集中していること。即県指定文化財屏風岩渡辺家、市の認定文化財茅葺き屋根の渡辺家、大谷石の自然の岩をくりぬいたハナレ(市の景観賞に推薦中)それに国登録の有形文化財が移築されると、観光客等の散策地域としても最適であること。
4、この場所は大谷石の採掘がされてなく、落盤等の心配は全くないこと。
5、面積的にも建物敷地を除いて十分の面積が確保でき、駐車場やベンチなどを置いて休憩場所ともなること。
6、城山地区主要七団体が一致して最適地として認めていること。

以上最適地とした理由を縷々列挙しましたが、検討・協議され、実行することを切望します。と提言した。何れにせよ、今年度中には、決定が予定されている。

添付書類
一、地主の土地提供承諾書
二、該当地の不動産登記簿謄本
三、近隣の優れた大谷石建造物所有者の意見書


平成25年7月30日

宇都宮市長
佐藤　栄一様

旧大谷公会堂の移築と活用を推進する会
代　表　小野口　順久

特定非営利活動法人　大谷石研究会	理事長	小野口順久
城山地区連合自治会	会　長	鈴木　豊男
荒針自治会	会　長	渡邊　文夫
大谷商工観光協力会	会　長	杉山　[illegible]
城山地区総合開発推進協議会	会　長	杉山　[illegible]
城山地区コミュニティ協議会	会　長	野崎　栄三
大谷石材協同組合	理事長	戸室　[illegible]

「旧大谷公会堂移築と活用を推進する会」7団体同意書

景観整備機構としての活動

NPO法人 大谷石研究会
副理事長　塩田潔

昨年、大谷石研究会は宇都宮市より「景観整備機構」の指定を受けました。これを機会に、石蔵等集落地域の調整や報告会を、宇都宮大学工学部の安森研究室と協同で実施しました。

5月28日　宇都宮市役所会議室にて西根地区意見交換

10月19日　上田原本調査　15名参加

8月24日　西根地区公民館
地元に調査報告会

NPO法人大谷石研究会のホームページ
http://www.ooyaishi.org/

コンテンツ
盛りだくさん

大谷石研究会とは・大谷石の歴史と魅力・全国の大谷石の建造物・最近の使用例・石蔵や大谷石の活用例・大谷石の工法と保存・活動報告ブログ・会報誌
(バックナンバーがダウンロードできます)

国登録有形文化財　小野口家住宅
画廊と庭園
東鬱堂
〒321-0344 宇都宮市田野町885　TEL 028-652-0407 FAX 028-652-6360
http://www5.plala.or.jp/toeido/ E-mail:toueidou@gray.plala.or.jp

大谷
販売・商品開発
有限会社KANEHON

〒321-0345　宇都宮市大谷町350番地
TEL 028-652-0172　FAX 028-652-0192